



木柑子石人

石人とは

古墳の近くに立てられている、阿蘇の凝灰岩でできた人の形をしたものを石人と呼んでいます。凝灰岩は石の中でも加工がしやすいので、素材として使われたようです。石人や石製品は九州の福岡県や佐賀、熊本、大分県の限られた地域にしか分布していません。この分布地域は、527年に大和朝廷に対抗して反乱をおこした筑紫の大豪族である磐井の勢力範囲と考えられています。

磐井の勢力範囲の古墳

日本の古墳では、粘土を焼いた土製品である筒形の円筒埴輪と、人物、動物、器具、家屋などをかたどった形象埴輪が並んで立ててあります。一方、磐井の勢力範囲の古墳には石製の人物や器物が立ててあるのが特徴です。大和朝廷に対抗するために、埴輪とは違ったものを立てたのでしよう。

武装石人

本市では、6世紀前半に築造された前方後円墳である木柑子古墳(菊池市木柑子)の前方部に、石人(フツツカサン石人)が立てられています。石人の胸部が甲を表現しているように見られるので、武装石人だと考えられています。石人の大きさは高さ109cm、肩幅は33cm、胸の厚さは23cmあります。左手をくびれた腰に当てており、その指は6本あるように見えます。

石人を観察すると、頭部が失われており、後世に別の石を接着しているのが分かります。右腕も切り落とされており、他の石人などでも破壊の跡が多く確認できます。磐井の反乱鎮圧後、磐井のシンボルである石人を破壊することで、乱の終わりを周囲に知らせたのではないかと考えられています。



フツツカサン石人

いじめを克服する子どもたち

随分前になりますが、5年生を担当して間もなく、一人の女子から相談を受けました。「男子の様子が変。水道の蛇口の所で水を飲むために何人も並んで横にある蛇口は空いているのに誰も使わないの。男子の一人に聞いたら、里沙ちゃんが使った後だから使わん方がいいって。このことを帰りの会に出したいけどいいですか」と、自分なりにつかんだ事実とその理由も添えて。

いじめは教師が知らないところで起こりやすいものです。私も休み時間にその事実を確かめ、急きよ学級会で話し合いをしました。教室の前には「いじめや差別のない楽しいクラスにしよう」と、目標が掲げられています。

話し合いでは「里沙ちゃんが使った物は触らない」「廊下ですれ違ったらよける」「給食の配膳の時に、里沙ちゃんが差し出したお椀を受け取らず、台にあるものを取る」などの事実が、男子からだけでなく女子からも次々に出されました。

なぜそういうことをしたのか、理由や原因を尋ねていくと「み

菊池市地域人権教育指導員 吉山義信

んながしていたから」「明君から、里沙ちゃんが使ったものは触らん方がいいと言われたから」など、人のせいにしてたり、周りに合わせてまねをしたという意見ばかりで、原因がはっきりしません。昔のことを思い出しながら原因を究明していくと、いじめの始まりは、1、2年の頃にあったことが分かってきました。里沙ちゃんとけんかした児童が、プールで「里沙ちゃんが泳いだ後に黄色いものが見えた」と言い「おしっこをした、汚い」と決めつけられるようになったことや、仲間外しについて、これまで何回も話し合ってきたことも分かってきました。

みんなが自分のしたことについて話すのを、黙って聞いていた里沙ちゃんはこう語りました。「なぜみんなが私を避けるのか、これまでずっと悩んできました。でも長い間苦しんできたものの正体がやっと分かった。こんな簡単なことだったのか」と。途中で言葉が詰まりましたが、クラスの子どもたちには、里沙ちゃんの気持ちは十分伝わりました。

里沙ちゃんは休み時間になる

と保健室に通っていました。私もクラスの子どもたちも、教室に友達がいなかったらとばかり思っていました。訳を尋ねると「自分は小さい子どもが好き。一緒にいると楽しい。だから保健室に行く。将来は保育園の先生になりたい」と答えました。私をはじめ子どもたちも里沙ちゃんのことを少しも理解していませんでした。

地域からの信頼もありました。近所にいる4名の1、2年生の親たちから登校班のお世話を頼まれていて、学校に行きたくないと思ったことが何度もあったけど、自分は休むわけにはいかなかったと話していました。

クラスの子どもたちは里沙ちゃんの話聞きながら、それぞれ自分のことを考えていました。そしてこれまでの暮らし方を変えたいという児童も出てきました。一方、里沙ちゃんにも変化がありました。町内文化祭に出品した絵画が特選となったのです。これまでの抑圧から解放されたことで、自分らしい伸びびとした表現ができたのだと思います。